

---

---

## 令和2年度（第1回）サステナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）の講評結果

---

---

### 1. 募集期間

令和2年4月24日～6月5日（当日消印有効）

### 2. 応募件数

提案数 5件

### 3. 評価方法

評価は、一般社団法人環境共生住宅推進協議会に設置した学識経験者からなる「サステナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）評価委員会」（以下「評価委員会」という。）において、以下の手順で実施した。

まず、応募のあった提案の内容について、「要件への適合」、「地域の気候風土への適応性」、「環境負荷低減等の対策」、「住宅の省エネルギー性能」の観点から、事前の書類評価を行った。内容について追加情報が必要とされた提案については、書類の追加を依頼した。

さらに、「地域の気候風土への適応性」「環境負荷低減などの対策」について個々の審査を行い、本事業による支援対象として適切と思われる提案を選定した。

評価の基準として特に下記の3つに重点を置き審査した。

- ①地域の気候風土に応じた伝統的な建築技術を活用しているかどうか、またその活用程度。
- ②現行の省エネルギー基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策を行っているかどうか、またその対策の程度。
- ③上記①、②の実施の程度をふまえ、伝統的構法の継承に配慮しつつ、サステナブルな社会の形成に向け、長期耐用性や省エネルギー等の環境負荷低減効果が高い水準で期待される先導的な事業提案であるか。

①の地域の気候風土に応じた伝統的な建築技術の活用については、必須要素を含め、「様式・形態・空間構成」「構工法」「材料・生産体制」「景観形成」「住まい方」全般にわたり、いずれの申請物件も、要素の約半数の項目について申告され、そのほとんどの項目で効率よくポイントを獲得しており、この事業の主旨を十分に満たすものであった。

地域の気候風土への適応性については、材料や軒庇による夏期や冬期への対応、開口部や建具の工夫による日照・採光・通風の確保、植生を活かした景観形成、蒸暑地域における台風や遮熱への対策といった「地域の自然的環境との関わり」、材料、生産方式、地域景観、地域コミュニティといった「文化・技術の継承等」について、建設地の状況や地域性を十分に読み取り、これらを設計に活かし、特徴づけている取り組みがみられた。

②の現行の省エネルギー基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策については、いずれの申請物件も、項目全般にわたり、具体的で確かなエビデンスに基づいた取組みが幅広く提案されているが、一部、対策に関する具体的な説明や内容が図面や資料からは読み取れなかった提案もあった。

③について申告はなかった。

#### 4. 評価結果

①②③に重点を置き審査した結果、5件のうち5件を採択した。

採択された5件にあっては、①及び②について一定の取組みが講じられており、建設地の気候風土の特性に応じた建築的措置や現行の省エネルギー基準では評価が難しい環境負荷低減対策が、それぞれの敷地・周辺環境に応じて多面的にバランス良く盛り込まれており、かつ地域生産性も十分配慮している点を評価した。

温暖地域においては、石場建てや土塗壁、落とし込み板壁構法といった伝統的かつ気候風土的要素を採用しながら極力断熱性能の向上を図ることを基本に、

- 焼杉板張り外壁や格子による地域に根ざした建物形態・意匠の継承や植生に配慮した緑化による地域景観との調和を図った住宅
- 仮設住宅の再生転用を図りながら、地域に残る歴史的景観との調和を図るとともに、里山地域における様々な取組みを図った住宅
- 都市部郊外の住宅地において、地域で産出される豊富な地域材を積極的に多用した住宅について先導的な事業提案であると評価した。

高温多湿な蒸暑地域においては、

- 遮熱・通風技術など特有の気候風土への対策のほか、配置や中間領域、建物形状、緑化による地域の伝統的集落との調和を図った住宅について先導的な事業提案であると評価した。

支援対策として適切であると評価したプロジェクトの概要は別紙のとおりである。これらは、計画内容に鑑み、地域の特性を把握し、伝統的構法の継承に配慮しつつ、持続可能な社会の形成に向け、省エネルギー等の環境負荷低減効果が高い水準で期待される先導的な事業計画である。

#### 5. 評価のポイント

本事業の主旨に照らせば、本事業の評価のポイントとして以下の項目が挙げられる。

- ①地域の気候風土に応じた伝統的な建築技術の活用については、「様式 4-1 必須要素」について、その要素が意匠・デザインのレベルにとどまっているもの、断熱性能の確保を

困難にするとまでは言えないと判断したものについて評価は行わない。

②現行の省エネルギー基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策については、「様式 5-1 A. 建物や外部環境による対策」について、その計画内容が室内温熱環境を低減するとまでは言えないと判断したものについては評価を行わない。

③住宅の性能について、低炭素住宅並みの性能を備えるようにするために、可能な範囲で、できる限りの断熱化を図ることが重要である。それが結果的により高い評価につながることになる。

## 6. 次回以降の公募に対する留意点及び期待する点

### (1) 留意点

#### ○申請書類作成について

- ・様式 4 の必須要素は 1 つ以上の申告が要件である。その他の項目についても、各区分についてバランスのとれた申告がなされていることが望まれる。
- ・申請様式で申告されているものの、提案書類や図書に具体的な標記がないものや提案図書に図示があるものの申告書に記載がない等、申請書が整合されていなく、評価し難い点が見受けられる。
- ・本事業の目的等に鑑み、設備計画においても、住宅のプランや空間・導入技術に見合う積極的な提案が望まれる。

### (2) 期待する点

#### ○提案内容について

- ・伝統的な住宅として一般的な提案に加え、地域の産業構造や生活作法などの地域特有の対策を活かした提案を期待する。
- ・建設地の気候風土の特性に応じた建築的措置の導入等により断熱構造化が困難となりかつ現行の省エネルギー基準では環境負荷低減の評価が難しい対策について、建物や外部環境、暮らし方、及び地域生産等多面的な観点から、可能な限り講じられた提案を期待する。
- ・地域における生産体制への参画や、継承に係る連携体制の構築等により、本事業の普及啓発に寄与する提案を期待する。  
※ “生産者等が関連事業者とともに連携体制（グループ等）を構築し、地域における住宅生産体制の強化や、地域の気候風土に応じた伝統的な建築技術・工夫等による低炭素化に係る先導的な取組み等の普及啓発に寄与する提案 等”

#### ○省エネルギー性能について

- ・気候風土に適応した工法や納まり等に取り組みつつ、同時に断熱等の省エネルギー性能向上に努めている住宅については、気候風土適応型住宅のパイロットモデルの提案を期待する。

○蒸暑地域での取組みについて

・ 8 地域を対象に、地域生産性に優れるコンクリート造住宅の提案申請があったが、今後も、気候風土に適合するコンクリート造住宅の提案のほか、木造住宅への取組みも期待する。

[参考]令和元年度サステナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）評価委員会／委員名簿

委員長 鈴木 大隆 （独）北海道立総合研究機構 理事  
委員 大橋 好光 東京都市大学 名誉教授  
齋藤 卓三 一般財団法人 ベターリビング 住宅・建築評価センター 認定・評価部長  
澤地 孝男 国立研究開発法人 建築研究所 理事  
篠 節子 （公社）日本建築士会連合会 環境部会副部長  
（公社）日本建築家協会 伝統的工法のすまいRU代表委員（篠計画工房）  
砂川 雅彦 株式会社 砂川建築環境研究所 代表取締役  
三浦 尚志 国立研究開発法人 建築研究所 主任研究員  
渡邊 隆 これからの木造住宅を考える連絡会  
日本伝統建築技術保存会 副会長（風基建設 株式会社）

（敬称略・五十音順）

サステナブル建築物等先導事業(気候風土適応型)として適切であると評価したプロジェクトの概評

住宅の名称		広江の家
申請書類作成者		一級建築士事務所(有)バジャン
建設地		岡山県倉敷市
建物階数 / 延べ床面積		一階建 / 128.07㎡
建物の概要		<p>建設地は、瀬戸内海沿岸の平野で、海が近いため、夏は海からの温かく湿った風により高温多湿になる。 年間を通じて北と西からの風が多く、雨量は少なめ。夏は日射が厳しいが、冬は豊かな日射が得られる。</p> <p>岡山県は檜の生産量日本一の林産県。また近隣にはイグサの一大生産地もあった。 倉敷の伝統的な家の意匠の多くは、瓦屋根に焼杉張り、漆喰塗り。</p> <p>こうした自然気象条件、社会条件をふまえ、広江の家では、以下の点に留意した。 ○伝統的な構法による土壁石場建てとする ○気候風土の長所は活かし、短所には対応する ○外壁に、倉敷の伝統的な意匠・材料を用い、敷地には外から見て楽しめる小さな森をつくることで景観への寄与を図る</p> <p>夏の高温多湿対策として、石場建て＋土塗壁＋無垢材を多用するとともに、夏の日射を遮蔽する一方、冬の豊かな日射は妨げずに活用するように軒の長さや高さを調整して設計した。</p> <p>気候がよい春秋には、家の中を風が通り抜けるように開口部の位置を設計。安心して窓を開けられるように、外部には格子を設けた。</p> <p>構造材や仕上材は、県産材(檜、杉、地松)を使用し、地域の林業や木材業が健全に事業継続できるように協力する。</p> <p>季節により空間の大きさを調整できるよう、最も在室時間が長いLDKは、茶の間との間を引き戸とすることで可変性を持たせた。</p> <p>生産時、施工時、廃棄時ともに大きなエネルギーを必要とせず、豊かな住環境をもたらす土塗壁、木製建具、無垢材を使用した。</p> <p>地域の材木・材料を地域の木工・職人が施工することにより、運搬交通エネルギーの削減を図った。</p>
地域の気候風土への適応の要素リストのうち少なくとも一つ以上申告が条件となっている要素	要素	小屋組み現しかつ野地板現し、土塗壁、開放的な床下(石場建て)、面戸板現し、地場で製作される木製建具、竿縁天井、土間(三和土)、下地材を用いない単層床板張り
	評価(その他の要素を含む)	<p>続き間、高天井(最高6160mm)、引き戸形式の内部建具、深い軒庇(1200mm)、多層構成の大開口部、無垢の製材、大断面構造材、部材現し、貫・差鴨居の軸組、和小屋組、金物類の不使用、手刻み加工・伝統的な継手仕口、瓦屋根、荒板による野地板、板張り壁(外壁・内壁)、木製建具、紙障子、格子、漆喰塗壁、稲わら床の畳を評価した。</p> <p>また、材料・生産体制、景観形成、住まい方について多くの項目が申告されており、資料から具体的な内容を読み取ることができた項目を評価した。</p>
現行の省エネルギー基準では評価が難しい環境負荷低減対策	環境負荷低減対策	LDKと茶の間の間の引き戸による可変性とランドリールームまでを含めた通風の確保、深い軒庇、多層構成の建具(LDKと茶の間の内障子・木製格子網戸)、竹小舞下地の土塗壁(厚さ70mm)、複数個所での木製建具、内部仕上げの床材(厚さ30mm)、地域産のいぐさを使った稲わら床の畳、地域の植生を活かした緑化による生物環境の保全、構造材・内部仕上げ材・土壁・土間・畳への地域産材の活用、地域の建築職人・大工の登用を評価した。
	評価	<p>石場建てや土塗壁といった伝統的かつ気候風土の要素を採用しながら極力断熱性能の向上を図ることを基本に、焼杉板張り外壁や格子による地域に根ざした建物形態・意匠の継承や植生に配慮した緑化による地域景観との調和を図った住宅の提案。</p> <p>敷地の北と西に、地域の植生を活かした小さな森を設けることで、生物の生息環境の保全に努めるとともに、東側には家庭菜園も設け、外部環境にも配慮した提案となっている。</p> <p>地域で産出されるいぐさを用いた畳だけではなく、畳縁専門工場のある地元企業の畳縁を採用している。</p>

サステナブル建築物等先導事業(気候風土適応型)として適切であると評価したプロジェクトの概評

住宅の名称		筑波山麓板倉仮設転用住宅
申請書類作成者		株式会社里山建築研究所
建設地		茨城県つくば市
建物階数 / 延べ床面積		二階建 / 115.93㎡
建物の概要		<p>建設地は、筑波山の南の山麓に位置している。起伏の無い地形で、日照時間が長く比較的温暖な地域であるが、冬期の放射冷却により朝晩の冷え込みが厳しく、氷点下になることもある。年間を通じて東西方向の卓越風が吹き、十分な日射と通風が期待できる。</p> <p>地域は、筑波山神社の参詣道となる「つくば道」の起点となる場所であるとともに、古くは江戸期から続く商家や町屋が街並みを形成している。また、山麓特有の森林資源を活用してきた文化圏に属し、歴史文化的資源とともに筑波山麓の里山生活文化を継承する土地柄である。</p> <p>こうした自然気象条件・社会条件をふまえ、筑波山麓板倉仮設転用住宅では、以下の点に留意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○落とし込み板壁による仮設住宅(東日本大震災)の転用とする</li> <li>○地元工務店、大工、職人の協働と、構法の普及啓発に取り組む団体との連携を図る</li> <li>○筑波山麓の杉材を適材適所で最大限活用する</li> </ul>
		<p>通りに面して格子を配置し、外壁はスギ大和張りとして、地域の歴史的景観に配慮した。</p> <p>地元にいる構法に熟練した職員の技術の伝承、普及を図った。</p> <p>間伐した針葉樹や竹等、地域の里山の資源活用のため、高温燃焼方式の薪ストーブを採用した。</p> <p>構造、造作木材、屋根材、設備機器等の再利用率を上げ、資源の有効活用を図る。</p> <p>地窓、高窓、窓の配置による自然換気を基本とし、機械設備に頼らない通風計画とした。</p> <p>東西面の窓には、羽板や蔀戸、大開口部には小庇を設置するなどの建築的工夫により、機械設備に頼らない日射、温熱環境の調整が可能な計画とした。</p>
地域の気候風土への適応の要素リストのうち少なくとも一つ以上申告が条件となっている要素	要素	小屋組み現し、地場で製作される木製建具
	評価(その他の要素を含む)	<p>続き間、風除室のある玄関、高天井(2970~5085mm)、吹き抜け、引き戸式の内部建具、深い軒庇(910mm)、多層構成の大開口部、高窓・天窓、無垢の製材、大断面構造材、部材現し、落とし込み板壁、板張り壁(外壁・内壁)、格子、本わら床の畳、床板張り仕上げ、自然材料系断熱材(ウッドファイバー、フォレストボード)を評価した。</p> <p>また、材料・生産体制、景観形成、住まい方について多くの項目が申告されており、資料から具体的な内容を読み取ることができた項目を評価した。</p>
現行の省エネルギー基準では評価が難しい環境負荷低減対策	環境負荷低減対策	<p>食堂・居間・和室の間の引き戸による可変性と通風の確保、深い軒庇、多層構成の建具(掃き出し窓における障子・襖、地窓外側の蔀戸)、内部仕上げの床材(厚さ30mm)、地窓・高窓・吹き抜けを介した温度差換気、引き戸やスキップフロア・吹き抜けによる通風、本わら床の畳(厚さ60mm)、落葉樹を含む自生種による緑化と下草による敷地緑化、地域で伐採・製材した木材の活用、地域の工務店・職人、板倉構法に熟練した体制、薪ストーブの設置、東日本大震災で建設された仮設住宅の再生転用(構造材、設備機器、建具)を評価した。</p>
	評価	<p>落とし込み板壁構法といった伝統的かつ気候風土的要素を採用しながら極力断熱性能の向上を図ることを基本に、地域に残る歴史的景観との調和を図るとともに、里山地域における様々な取り組みを図った住宅。</p> <p>新たに調達する材は、仮設住宅の再生転用を図っている。</p> <p>地窓+蔀戸、高窓+ルーバー、スキップフロアなど、建具配置と附属部材、空間計画による通風と遮熱への配慮がみられる。</p> <p>地元工務店と共に建て方を行うことで、技術の継承を図っている。</p>

サステナブル建築物等先導事業(気候風土適応型)として適切であると評価したプロジェクトの概評

住宅の名称		豊田の石場建て
申請書類作成者		水野設計室
建設地		愛知県豊田市
建物階数 / 延べ床面積		一階建 / 89.44㎡
建物の概要		<p>建設地は、都市部郊外の住宅地。 地域の気候は太平洋気候区に属し、夏期は高温・多湿、冬期は低温・乾燥である。年間の日照時間は多く日当たりは良い。 南東には小さな川、北西には開けた公園があり、一年を通じて、北西と南東の2方向からの風が吹くことが多い。</p> <p>建設地がある愛知県三河地方は、土と木に恵まれた土地で、全国的にも土壁の家づくりが最後まで盛んであった地域。三河地方の伝統的な民家の間取りは、西側に和室の続き間と床の間と縁側のある農家型民家である。</p> <p>こうした自然気象条件、社会条件をふまえ、豊田の石場建てでは、以下の点に留意した。 ○縁側・二間続きの畳の部屋、障子や木製建具を多用し、日照・採光・通風を取り入れたエネルギー消費の少ない暮らしをめざす ○過半数以上の外壁を真壁土塗壁とし、伝統的な石場建て工法を採用することで、維持管理のしやすさと耐久性の向上をめざす ○三河杉や三河桧などの三河の木と、三州瓦や瀬戸の荒壁土や豊田の中塗り土などの三河の土といった地元の伝統的な建築素材を積極的に使用する</p> <p>夏の暑さ、冬の寒さを和らげるため、縁側や玄関など温熱緩衝空間を設け、茶の間・和室・台所など主たる居室の断熱化・気密化を図った。</p> <p>地域の卓越風を活かすため、掃き出し窓の開口部・内部引き戸・中庭を設けて、夏の暑さに対する通風に配慮した。</p> <p>内部の左官仕上げは、豊田市内で生産されている中塗り土・藁スサを原料とする伝統的な中塗り仕上げとし、左官技術と素材の生産体制の継承を図った。</p> <p>土塗壁・厚板の床張り等、蓄熱・調湿に優れた素材を採用することで、自然の熱放射を利用し、夏冬の空調エネルギーの削減を図った。</p> <p>敷地内の緑化、すだれ・よしずの利用、窓雨戸の開け閉め励行を行うことで、日射と通風をコントロールし、空調エネルギーの削減を図った。</p> <p>地域の素材を使用し、地元の職人を登用することで、運搬・移動の環境負荷低減を図った。</p>
地域の気候風土への適応の要素リストのうち少なくとも一つ以上申告が条件となっている要素	要素	縁側、小屋組み現しかつ野地板現し、土塗壁、開放的な床下(石場建て)、面戸板現し、地場で製作される木製建具、竿縁天井
	評価(その他の要素を含む)	<p>続き間、引き戸形式の内部建具、深い軒庇(1000mm)、多層構成の大開口部、外部床(ウッドデッキ)、無垢の製材、大断面の構造材、部材現し、貫・差鴨居等の軸組、和小屋組、金物類の非使用、手刻み加工・伝統的な継手仕口、瓦屋根、荒板による屋根野地、板張り壁(外壁・内壁)、木製建具、雨戸、紙障子、塗壁(中塗り仕上げ)、稲わら床の畳、床板張り仕上げ、天然材料系断熱材(フォレストボード)を評価した。</p> <p>また、材料・生産体制、景観形式、住まい方について多くの項目が申告されており、資料から具体的な内容を読み取ることができた項目を評価した。</p>
現行の省エネルギー基準では評価が難しい環境負荷低減対策	環境負荷低減対策	茶の間と和室の間の引き戸による可変性と通風の確保、縁側(奥行910mm)、深い軒庇、障子・雨戸・網戸による多層構成の建具、竹小舞下地の土塗壁(厚さ:荒壁70mm+中塗り両面20mm)、木製建具(3か所)、内部仕上げの床板張り(厚さ27mm)、稲わら床の畳(厚さ55mm)と荒板の下地(厚さ12mm)、芝生・植栽による緑化、構造材・造作材等への地域産の木材の活用、壁土や藁スサ、瓦への地域産の土の利用、地元の職人衆や住宅生産者による施工を評価した。
	評価	<p>石場建てや土塗壁といった伝統的かつ気候風土的要素を採用しながら極力断熱性能の向上を図ることを基本に、都市部郊外の住宅地において、地域で産出される豊富な地域材を積極的に多用した住宅。</p> <p>構造材・造作材・下地材への地域産の木材等の使用、壁土、藁スサ、瓦への地域産の土の使用など地域産の材料の使用や地元職人の登用の取り組みが顕著である。</p> <p>両側真壁以外の土壁の外部側、化粧野地板の上部などにも断熱材を施工し、断熱性能を向上させる姿勢がみられる。</p>

## サステナブル建築物等先導事業(気候風土適応型)として適切であると評価したプロジェクトの概評

住宅の名称		U邸新築工事
申請書類作成者		有限会社門
建設地		沖縄県今帰仁村
建物階数 / 延べ床面積		一階建 / 117.30㎡
建物の概要		<p>建設地は、沖縄の中でも地域景観が指定された伝統集落地域に属した住宅地。亜熱帯海洋性気候で高温多湿な蒸暑地域。夏と冬の温度差が小さく、湿度は年間を通じて70%以上で高い。太陽の南中高度が高く日射量が多い。台風が多く、比較的風の強い地域。</p> <p>「景観法」で指定された地域の景観配慮としては、敷地内の保全や緑化、アマハジや南入りの配置等の沖縄ならではの風土と調和した空間デザインと、赤瓦や漆喰、木材など地域の素材などが挙げられている。</p> <p>こうした自然気象条件、社会条件をふまえ、U邸新築工事では、以下の点に留意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○沖縄の風土に根ざした建築をつくる</li> <li>○自然素材を生かし、人にやさしく快適な住まいを提案する</li> <li>○自然風を考慮した平面計画とする</li> </ul> <p>LDK上部に木造の小屋組みを設けてRC造と木造の混構造とし、台風に耐える堅牢な住宅であるとともに、輻射熱の軽減、木造加工の技術継承を図った。</p> <p>自然風を取り込むため、南側・東側に大きな開口部を設け、反対側には換気のための窓を設けた。</p> <p>また調湿性の良い漆喰等を使用することで、湿気防止とカビ対策を行った。</p> <p>強い日射しに対して、深い庇やルーバーによる日射遮蔽を行った。</p> <p>建物配置を南入りとしながら、周辺の景観を考慮した平屋とし、アマハジの中間領域を設けた。</p> <p>玄関ポーチに湯汲石灰岩を、内部には県産品漆喰を採用した。</p> <p>盛んな地域コミュニティを反映して多くの知人が訪ねてくるので、極力広く風通しの良い空間とした。</p>
地域の気候風土への適応の要素リストのうち少なくとも一つ以上申告が条件となっている要素	要素	—
	評価(その他の要素を含む)	<p>続き間、高天井(3330mm)、引き戸形式の内部建具、深い軒庇(1600mm)、大開口部、地窓、高窓(ハイサイドライト)、外部床(アマハジ・ウッドデッキ)、無垢の製材、大断面構造材、部材現し、屋根通気ブロック、花ブロック(アルミルーバー)、雨戸、塗壁(漆喰)、床板張り仕上げ、調湿材を評価した。</p> <p>また、材料・生産体制、景観形式、住まい方について多くの項目が申告されており、資料から具体的な内容を読み取ることができた項目を評価した。</p>
現行の省エネルギー基準では評価が難しい環境負荷低減対策	環境負荷低減対策	<p>LDK・和室・寝室の間の引き戸による可変性と通風の確保、深い庇と木製デッキ(アマハジ)による温熱的な緩衝空間の創出、アルミサッシに設けられた雨戸(台風・防犯対策)、LDK上部の木造小屋組み、内部仕上げの床材(厚さ30mm)、複数の窓による通風への配慮、琉球畳、遮熱塗装、アルミルーバー(花ブロックと同等の効果)、すだれ・よしずの利用、窓・雨戸の開閉の励行、地域産の漆喰の利用、地域の職人育成を評価した。</p>
	評価	<p>高温多湿な蒸暑地域において、地域特有の気候風土への対策のほか、配置や中間領域、建物形状、緑化などにおいて、地域の伝統的集落との調和を積極的に図った住宅。</p> <p>沖縄特有の、温熱的な緩衝空間としてのアマハジは、空間の使い方の提案として評価できる。</p> <p>RC造と比較して熱容量の小さい木造の小屋組みは、夜間の天井からの放射を低減する取り組みとして評価できる。</p>

## サステナブル建築物等先導事業(気候風土適応型)として適切であると評価したプロジェクトの概評

住宅の名称	風と生きる花ブロックの家	
申請書類作成者	松田まり子建築設計事務所	
建設地	沖縄県沖縄市	
建物階数 / 延べ床面積	一階建 / 80.20㎡	
建物の概要	<p>建設地は、地方都市郊外の住宅地。          気温は年間を通じて概ね18～28℃の範囲にあり、高温多湿。台風の常襲地で風が強く、紫外線も強いいため、風と日射から建物を守る必要がある。          比較的海に近いため、雨水に含まれる塩分もあり塩害が著しい地域。</p> <p>伝統的な花ブロックや地下水の濾過によって廃棄される炭酸カルシウムを利用した遮熱ブロックという沖縄独自の技術がある。</p> <p>こうした自然気候条件、社会条件をふまえ、風と生きる花ブロックの家では、以下の点に留意した。          ○外部環境の快適さを活かした住まい          ○台風・塩害・紫外線など耐候性を意識した住まい          ○8地域にふさわしい省エネルギーバランス</p>	
	<p>高温多湿な海洋性気候への対応として、床下を設けず、土間に断熱材を施工することで結露防止対策とした。また室内で発生する水蒸気とともに、屋外から流入する熱と湿気の動きを注視する。</p> <p>強い紫外線・室内への日射熱取得の低減への対応として、花ブロック・屋根通気ブロック・白色塗料による日射遮蔽技術を採用した。</p> <p>年間を通じて多方向から吹く風と台風来襲時の対応として、花ブロックによる大開口部での風圧力低減と台風時の防災を図った。          深い軒庇・地窓・引き戸や常時開放窓を採用し、日常空間に微風が流れるように位置を計画した。</p> <p>不在時にも通風可能とするため、防犯性に優れたジャロジー窓の玄関への設置と花ブロックによる開放性を確保した。</p>	
地域の気候風土への適応の要素リストのうち少なくとも一つ以上申告が条件となっている要素	要素	—
	評価 (その他の要素を含む)	<p>高天井(2850mm)、引き戸形式の内部建具、深い軒庇(1000mm)、大開口部、地窓、天窗・高窓、中庭(坪庭)、屋根通気ブロック、白色塗装、花ブロック、床板張り仕上げを評価した。</p> <p>また、材料・生産体制、景観形成、住まい方についての申告があり、資料から具体的な内容を読み取ることができた項目を評価した。</p> <p>それ以外の項目について数多くの申告があり、上記の項目との重複を勘案しながら評価した。</p>
現行の省エネルギー基準では評価が難しい環境負荷低減対策	環境負荷低減対策	<p>テラスと上部の深い軒庇による緩衝空間、無垢フローリング、常時開放のジャロジー窓、屋根の通気ブロックと白色塗装、花ブロック、よしず・すだれの利用、窓・雨戸の開閉の励行、地域で地産地消できるRC造、地域との関わりを重視した職人の登用を評価した。</p>
	評価	<p>RC造の堅牢性ととも、沖縄の伝統的な材料である花ブロック、遮熱ブロックの活用を中心に、通風、内外空間の連続性、日射遮蔽、台風への対策といった沖縄の気候風土への対策と独自技術の推進を図った住宅。</p> <p>花ブロックを用いたテラスは、緩衝空間として、また空間の使い方として評価できる。</p>